

# 那須与一伝承館通信〈第11回〉

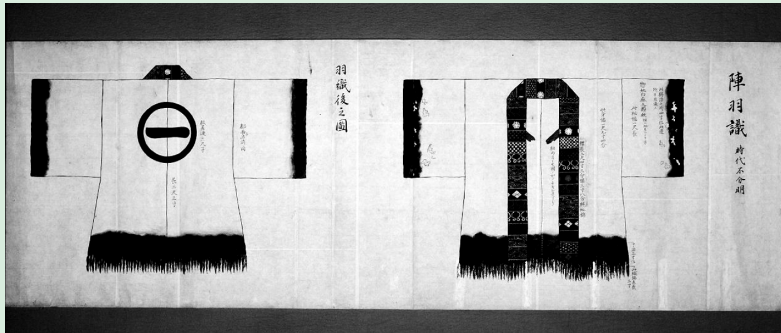
## 陣羽織図

今回は那須与一伝承館が収蔵する資料の中から、「軍器図巻」所収、陣羽織図を紹介いたします。

陣羽織とは、陣中で鎧・具足の上に着た上着のことです。絹・羅紗（羊毛で地の厚く密な毛織物）・ビロード（ベルベット）などで作り、袖無しのように仕立てて、刺繍や摺箔（金箔や銀箔を糊などで生地接着させ、文様を表現する技法）を施したものや、襟に黒縹子（黒のサテン）を用いて文様を金で摺り出したものなどがあります。

もともと陣羽織は、室町時代に渡来したスペイン人やポルトガル人などの服装を模したものとみられています。

かつて那須家に伝来していた陣羽織は、袖無しではなく、両袖のついたもので、白の麻地に袖先と裾を紺に染め、襟には錦をあしらったものでした。また背には、「丸二一文字」という那須家の紋が染められておりましたが、残念ながら、現在、陣羽織その物の所在は不明です。



「軍器図巻」所収、陣羽織図（那須家所蔵）

そのため那須与一伝承館では、寛政九年（一七九七）に那須資明が描いた陣羽織図をもとにレプリカを作製し、展示をしております。ぜひ一度、華やかな武士の装いをご覧ください。

### 問い合わせ

那須与一伝承館

TEL (20) 0220

## 彫刻

### 市内で作られた作品とその作者

## 周遊 23

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介いたします。

この作品は、ふれあいの丘のシャトー・エスポワールの前から大工房へ続く歩道の入口付近に設置されている彫刻です。

3人の人物像で、家族の姿をとらえたものとす



くにわかります。がっちりとした体格で背後から母子を包み込む父親。その前に立って子どもの肩にそっと手を添える母親。両親に抱かれながらしっかりと前を見据える女の子。両親は祈

### Symphony

ほんだ まさなお  
本多 正直  
1999年

るかのように、やさしく目をつぶっています。石の作品ながらも、寄り添う家族の姿に温かさを感じる作品です。

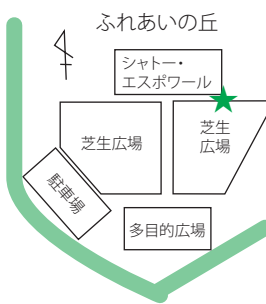
「気がつくといつも人をテーマに彫刻を創り出そうとしている」作者は、この作品に「家族一人一人の思いとお互いのきずな」を表現したといいます。

作者は、1961年埼玉県生まれの本多正直氏。1984年に東京学芸大学教育学部D類美術科を卒業。日本美術教育学会等に所属し、二紀会彫刻部会員として毎年二紀展に出品。私立埼玉栄高校教諭、青山学院大学文学部教育学科助手・非常勤講師などを歴任し、現在、群馬県にある共愛学園前橋国際大学の児童教育コース長・准教授として活躍されています。



本多 正直氏

### 設置場所案内図(★印)



### 問い合わせ

文化振興課文化振興係 TEL (23) 8718